

学校教育目標

- ◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成

食品化学科

笛吹高校の3年間で身に付けてほしい力

- 学習習慣の確立（書く力・表現する力）
- 課題解決能力の向上
- 自己実現力
- 地域社会と連携できる力

1年次の目標

- ①学習習慣の確立を図り、基礎基本の知識・技術を習得する。
- ②明確な進路目標の下、インターンシップに取り組み、オープンキャンパスに参加する。

2年次の目標

- ①課題解決能力を涵養するために自ら課題を設定し、計画し、情報を収集する中で課題解決に向け取り組む。その過程でイメージする力、コミュニケーション力を向上させる。
- ②進路実現に必要な資格取得に取り組む。

3年次の目標

- ①明確な進路目標の下、堅実に自己実現を果たす。
- ②笛吹市、山梨学院短期大学との包括連携を活用し、学習成果の深化を図り地域社会に視野を開く。

学ぶ皆さんへの助言・アドバイス

授業（座学、実験実習）に臨むときに必ず教科書等を使って予習をして下さい。予習をして受ける授業は、理解する感性が全く異なります。また、予習をした際に理解できなかった点を意識して授業を受けると「ああ！なるほどそうだったのか」と腑に落ち記憶に強く残ります。それでも理解できなければ先生、友達に訊いて下さい。友達は教えることにより、一層学習内容の理解を深めることになります。授業中は、先生の話・表情に集中します。特に実験実習は、危険を伴ったり、一瞬の変化を見逃さないための集中力が必要です。その体験が魅力的なノートやレポート作りに活かされます。また、是非覚えたいことは、『今未来手帳』にメモしたり、付箋に書いて直ぐに取り出し確認してみて下さい。授業後のノートまとめにも時間を十分掛けてオリジナルノート作りを楽しんで下さい。その掛けた時間が記憶にも大きく左右します。

	教科	科目	
1	国語	国語総合	
2	地理歴史	世界史 A	
3	数学	数学 I	
4	理科	科学と人間生活	
5	保健体育	体育	
6	保健体育	保健	
7	外国語	コミュニケーション英語 I	
8	外国語	英語表現 I	
9	農業	農業と環境	
10	農業	農業情報処理	
11	農業	食品製造	
12	農業	食品化学概論	
13	芸術	音楽 I	選択
14	芸術	美術 I	選択
15	芸術	書道 I	選択

平成30年度 年間シラバス（生徒配布用）

教科年間シラバス

詳細は授業にて指示

教科・科目	地理歴史・世界史A	単位数	2	必履修	必修	・選択
学年・系列・コース	1年全学科全クラス					
使用教科書	世界史A（実教出版）	副教材	アカデミア世界史			
目標とする生徒の将来像	近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。現代の諸課題を歴史的観点から考察し、歴史的思考を培う。国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。					

評価の観点	①授業への関心、意欲、態度および、授業内容を日本の歴史と関連付け、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現していること。(10%) ②諸資料の収集、有用な情報の選択、読み取り、図表などへのまとめ。(10%) ③近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。(80%)							
学期	単元・教材	主たる目標・つけたい力			評価の観点			
1 学期	第1章 ユーラシアの諸文明の特質 1 西アジア世界・イスラーム世界 2 ヨーロッパ世界 3 南アジア世界・東南アジア世界 4 東アジア世界・内陸アジア世界 第2章 ユーラシアの交流 1 海と陸の交流 2 モンゴル帝国と東西の交流 3 ヨーロッパ商業圏と東アジア海域の発展 第3章 一体化に向かう世界 1 世界の一体化の第一歩 2 ルネサンスと宗教改革 3 ヨーロッパの主権国家体制	・西アジア世界・イスラーム世界の特質の把握 ・ヨーロッパの風土と諸民族、ヨーロッパ世界の特質の把握。南アジア・東南アジアの風土と諸民族、南アジア世界・東南アジア世界の特質の把握。 ・東アジア・内陸アジアの風土と諸民族、国際体制、日本を含む東アジア世界の特質の把握。 ・ユーラシアの諸地域を結ぶ海と陸のネットワークの成長の把握。 ・モンゴル帝国の拡大とユーラシアの一体化の把握。 ・ヨーロッパにおける商業圏の発展や、日本を含む東アジア海域の交流圏の成長の把握。 ・大航海時代の世界の一体化への動きの理解。 ヨーロッパの主権国家体制の成立への理解。			①②③			
2 学期	第4章 アジアの繁栄と世界 1 アジアの繁栄 2 世界経済体制の形成 第5章 19世紀の世界の一体化と日本 1 産業革命と工業化社会の成立 2 アメリカ独立戦争 3 フランス革命とナポレオン戦争 第6章 二つの世界大戦 1 激変する社会と帝国主義 2 第一次世界大戦とロシア革命 3 戦間期のヨーロッパとアメリカ 4 民族運動の高まり 5 第二次世界大戦	・産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解する。 ・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中の日本の対応を扱い、19世紀の世界の一体化とその特質を理解する。 ・輸送革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを扱い、20世紀という時代の特質を人類的視野から把握できる。 ・第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考察できる。			①②③			
3 学期	第7章 第二次世界大戦後の世界と日本 1 冷たい戦争 2 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 3 多極化の進展と冷戦体制の崩壊 第8章 現代の世界 1 統合へ向かうヨーロッパ 2 旧ソ連・東ヨーロッパ諸国の動向 3 アメリカの戦争と世界同時不況 4 西アジアの混迷 5 南アジア・東南アジアの動き 6 巨大化する中国と東アジアの変動 7 ラテンアメリカ・アフリカ・オセアニアの情勢 終章 持続可能な世界をめざして 1 巨大技術と人間 2 人がんらしく生きるために 3 なお続く紛争	・第二次世界大戦後の世界が抱える問題などについて考察できる。 ・1970年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現を理解し、日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認めあいながら共存する方向などについて考察する。 ・原子力の利用、情報科学など現代の科学技術の人類への寄与と課題、移民や女性・子どもなど様々な人々に関する問題、地域紛争の原因とその歴史的背景などを追究し、人類の生存と環境、世界の平和と安全などについて考察するとともに、国際的な交流と協調の必要性に気付くことができる。			①②③			
検定資格(時期) 諸費用(予定)	なし							
履修にあたって	常になぜ・どうして、こういうことが起こったのだろうか。目的は何だったのかという疑問を持ち、いろいろな方法を使って考え、自分の意見や考え方を持つことができるようになることを期待します。							

平成30年度 年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	数学 I	単位	3	履修区分	必履修	・必修	・選択
対象学年・類型・コース	1年果樹園芸科 食品化学科						
使用教科書	東京書籍 改定 新 数学 I						
目標とする生徒の将来像	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算力と、基本的な問題解決能力が身についている 数学を利用して、身近な事象を考察できる力がついている 						
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查による評価 80点分 授業への取り組みの姿勢、課題の提出状況、小テストの結果等を考慮した 20点分 						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学 期	第1回定期試験	プレリュード	<ul style="list-style-type: none"> 中学校までの復習により基本的な計算力を身につける 高校での学習内容が理解できるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> 中学までの学習内容が身についているか 定期試験 課題や小テスト 			
	第2回定期試験	第1章 数と式 1節 整式	<ul style="list-style-type: none"> 整式の基本事項の理解を深め、加法・減法・乗法ができる 中学で学習していない展開について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 整式の計算の基本事項が身についているか 定期試験 課題や小テスト 			
2 学 期	第3回定期試験	第2節 実数 第3節 方程式と不等式	<ul style="list-style-type: none"> 根号を含む計算について基本的な計算ができる 1次方程式、1次不等式の意味を理解し、解くことができる 1次不等式を利用して、身近な問題を解くことができる 2次方程式を解くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力が身につき、発展的な問題にも積極的に取り組んでいるか 連立不等式の意味を理解しているか 定期試験 課題や小テスト 			
	第4回定期試験	第2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ	<ul style="list-style-type: none"> 関数の意味を知り、値が計算できる 2次関数のグラフをかける 2次関数の式を変形し、頂点の座標を求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 中学で学習したことが身についているか 2次関数のグラフを書くことができるか 平方完成ができるか 定期試験 課題や小テスト 			
3 学 期	第5回定期試験	2節 2次関数の値の変化	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフを描き、最大値最小値を求めることができる 2次関数のグラフを2次方程式の関係を理解できる 2次関数のグラフと2次不等式の関係を理解し、2次不等式を解くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 最大値・最小値を求めることができるか 2次関数のグラフと2次方程式、2次不等式の関係を理解しているか 定期試験 課題や小テスト 			
	検定資格（時期）	数学検定					
	履修にあたって	数学に苦手意識を持っている生徒も多いと思います。高校の数学はすべての内容がつながっていますので、しっかり復習をしましょう。基礎的な内容から取り組む予定ですので、一緒に基本的なことから順に学習していきましょう。基本的な計算は何度も繰り返し行うことによって身につきますので、しっかり取り組みましょう。					

平成30年度 年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	理科 科学と人間生活	単位	2	履修区分	必履修	・必修	・選択
対象学年・類型・コース	1年農業科・総合学科						
使用教科書	東京書籍『科学と人間生活』						
目標とする生徒の将来像	身近な事物・現象を考えるために必要な科学的素養を高める。						
評価の観点	① 【関心・意欲・態度】身近な事物・現象について関心をもち、意欲的に考えるとともに、科学的な見方や考え方を身につける。 ② 【思考・判断・表現】身近な事物・現象を科学的に考え、的確に説明する。 ③ 【観察・実験の技能】身近な事物・現象について観察・実験の基本操作を習得する。 ④ 【知識・理解】身近な事物・現象について、基本的な知識を身につける。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学 期	第1回定期試験	生物と光 1. 植物の生育と光 2. 光シグナルと生物 3. ヒトの視覚と光	・光合成を理解する。 ・呼吸を理解する。 ・ヒトの眼の構造を理解する。	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート	A B C A B C A B C A B C		
	第2回定期試験	微生物とその利用 1. さまざまな微生物 2. 微生物と人間生活のかかわり 材料とその再利用 1. プラスチック 2. 金属	・食品中、空気中、土中、水中の微生物を観察する。 ・発酵や腐敗が微生物のはたらきによって起こることを理解する。 ・プラスチックや金属の性質の理解を深める。	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート	A B C A B C A B C A B C		
2 学 期	第3回定期試験	3. 資源の再利用 衣料と食品 1. 衣料 2. 食品 光の性質とその利用 1. 目に見える光の世界 2. 光の進み方とその基本的性質	・繊維の分類と利用について理解する。 ・食品を構成する元素と組成を理解する。 ・物質の屈折率と光の速さとの関係を理解する。	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート	A B C A B C A B C A B C		
	第4回定期試験	3. 見えない光とその応用 熱の性質とその利用 1. 热とは何か 2. 热と人間生活 身近な天体と太陽系における地球 1. 天体が刻む「時」 2. 太陽系の構造	・電磁波を理解する。 ・物質の三態変化や熱膨張、及び絶対温度について理解する。 ・身近なエネルギーについて具体例とともに理解する。 ・1年を通じた太陽高度、日照時間の変化を天球から理解する。	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート	A B C A B C A B C A B C		
3 学 期	第5回定期試験	3. 太陽が動かす大気と水 1. 身のまわりの景観の成り立ち 2. 自然災害と人間	・エネルギー問題について考えさせる。 ・自然景観を理解する。 ・自然災害と対策を理解する。	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート	A B C A B C A B C A B C		
履修にあたって		授業で指示された問題は必ず解けるようにする。 いつも「なぜ?」という疑問は持ち続け、自分で調べる。 問題集の問題は、完全に理解できるまで繰り返し解く。 定期試験、模擬試験の問題は必ず取って置き、間違えたところは必ず出来るようにする。					

平成30年度 年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	保健体育・体育	単位	3	履修区分	必履修	・必修	・選択	
対象学年・類型・コース	1年食品化学科							
使用教科書	なし							
目標とする生徒の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・時間やルールを厳守し、率先して与えられた役割を確実にこなそうとする、責任感のある生徒。 ・運動の技能や知識を身につけ、高めていくために努力を継続することができる生徒。 ・積極的に活動に参加し、自己表現や他者への配慮などのコミュニケーションをとろうとする、信頼できる生徒。 							
評価の観点	<p>①【関心・意欲・態度】 時間やルールを守ることや、仲間とともに積極的に活動へ参加しようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 技能の向上のために、工夫したり、仲間と協力したりしているか。</p> <p>③【技能】 自己の身体を思い通りに扱い、正確な技能が発揮できているか。</p> <p>④【知識・理解】 技能が向上するための身体動作や運動の特性を理解し、知識を理解しているか。</p>							
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価			
1 学 期	第1回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・体つくり運動（体力を高める運動、集合、整頓、列の増減、集団としての行動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な運動能力を身につける ・大きな声を出すとともに、迅速に集団としての協調的な動きができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト ④観察 	A B C	A B C	A B C	
	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・バレー（男子） ・ソフトボール（女子） 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート 	A B C	A B C	A B C	
2 学 期	第3回定期試験	・ペース走	<ul style="list-style-type: none"> ・自己に適したペースを維持して走ったり、ペースの変化に対応して走ったりする。徐々に記録を向上させる努力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート 	A B C	A B C	A B C	
	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動（男子） ・ダンス（女子） 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動 基本的な技や発展技をなめらかに安定して行う。技を構成し演技をする。 ・ダンス 仲間と一緒に楽しむ楽しさや喜びを味わい、表現力や動きの質を高めて、交流や発表ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート 	A B C	A B C	A B C	A B C
3 学 期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー（男子） ・バスケ（女子） ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、バスケ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ・体育理論 生涯豊かなスポーツライフを送る上で必要なスポーツに関する科学的知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート 	A B C	A B C	A B C	A B C
	検定資格（時期）	なし						
諸費用（予定）								
履修にあたって	チャイム前には整列をし、大きな声で挨拶・体操をするところから体育の授業は始まります。お互いに100%で授業に臨みましょう。							

平成30年度 年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	保健体育・保健	単位	1	履修区分	必履修	・必修	・選択
対象学年・類型・コース	1年食品化学科						
使用教科書	現代高等保健体育・現代高等保健体育ノート						
目標とする生徒の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・健康問題に対して、課題解決をするために、自ら考え、発表したり記述したりできる生徒。 ・生涯にわたって健康を保持増進することができる知識を身につけ、それを活用することができる生徒。 						
評価の観点	<p>①【関心・意欲・態度】 健康問題に対し、興味・関心を持ち、個人あるいは仲間とともに積極的に課題解決をしようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 健康問題を解決するために、個人あるいは仲間とともに工夫したり、協力したりし、考え方を見いだしているか。</p> <p>③【知識・理解】 健康問題やそれを解決するための知識を理解し、発言したり記述したりしているか。</p>						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学 期	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 ・健康と意志決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり ・生活習慣とその予防 ・食事と健康 ・運動と健康 ・休養・睡眠と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康のとらえ方や病気、生活習慣の改善について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	<p>①観察 ②観察 ③テスト</p>	A B C	A B C	A B C
2 学 期	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・応急手当の意義とその基本 ・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や薬物乱用、応急手当について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	<p>①観察 ②観察 ③テスト</p>	A B C	A B C	A B C
3 学 期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・欲求と適応機制 ・心身の相関とストレス ・ストレスへの対処 ・心の健康と自己実現 ・交通事故の現状と要因 ・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスやその対処の仕方、交通安全について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	<p>①観察 ②観察 ③テスト</p>	A B C	A B C	A B C
検定資格(時期)	なし						
諸費用(予定)							
履修にあたって	現在や将来の日常生活をよりよく生活をしていくために必要な内容を学習します。発言やグループワークなども積極的に行い、主体的に授業に臨みましょう。						

平成30年度 年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	コミュニケーション 英語 I	単位	2	履修区分	必履修・必修・選択	
対象学年・類型・コース	1年 食品化学科・果樹園芸科					
使用教科書	VISTA English Communication I (三省堂)					
目標とする生徒の将来像	英語の文化における知識や考え方、世界の出来事、日本の状況を理解する 基本的な英語を使って、簡単な話を理解したり、聞き取ることができる 基本的な英語を使って、簡単な考えを書いたり、相手に伝えることができる					
評価の観点	①定期試験 ②授業小テスト ③授業活動への参加状況 ④英単語テスト ⑤標準考查 ⑥提出物					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学 期	第1回定期試験	Pre-Lesson Get Ready! Lesson 1 Kerama Blue Lesson 2 Cool Japan	辞書の使い方・英語学習方法 中学既習の文法事項の復習 現在の出来事を理解表現する [be 動詞、一般動詞の現在形] 現在の出来事を理解表現する [疑問文、現在進行形]	①②③④⑤⑥	A B C A B C A B C	
	第2回定期試験	Lesson 3 Mexican Dishes	過去の出来事を理解表現する [過去形、助動詞]	①②③④⑥	A B C	
	第3回定期試験	Lesson 4 The Olympics Lesson 5 Baobabus in Madagascar	自分の考えを表現する [I think that-,SVO,SVOO,SVOC] 不定詞の使い方を学ぶ [to+動詞の原形(目的)等]	①②③④⑤⑥	A B C A B C	
第4回定期試験	Lesson 6 Toothbrushing in Edo	動名詞の使い方を学ぶ [-ing(すること)]	①②③④⑥	A B C		
3 学 期	第5回定期試験	Lesson 8 Motala and Landmines Lesson 9 Dick Bruna Lesson 10 Tsuji, the Great Pianist	時制の違いと使い分けを学ぶ [have+p.p- 現在完了形] 関係代名詞を使った文を学ぶ [who, which の主格、目的格] 関係副詞を使った文を学ぶ 今までの表現を用いて自分のことを英語で相手に説明する [when, where, It is - for...]	①②③④⑤⑥	A B C A B C A B C	
	検定資格(時期) ・諸費用(予定)	実用英語技能検定(6月・11月・1月) :希望者受験(進学希望者は入試の際に必要になる場合あり、平成30年度~)				
	履修にあたって	英語の辞書の使い方から、高校での英語学習について基本的なことを学ぶ 授業には必ず辞書を準備し、単語を調べるようにする				

平成30年度 年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	英語表現 I	単位	1	履修区分	必履修・必修・選択
対象学年・類型・コース	1年 食品化学科・果樹園芸科				
使用教科書	BIG DIPPER English Expression I (三省堂)				
目標とする生徒の将来像	基本的な英語の文法を身につけ、使うことができる 基本的な英語を使って、簡単な話を理解したり、聞き取ることができる 基本的な英語を使って、簡単な考えを書いたり、相手に伝えることができる				
評価の観点	①定期試験 ②授業小テスト ③授業活動への参加状況 ④英単語テスト ⑤標準考查 ⑥提出物				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学 期	第1回定期試験	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	辞書の使い方・英語学習方法 英語の語順[SV-]を理解する 英語の主語を理解する [人を表す代名詞、天候 It] 存在を表す文を理解する [There Is/are-] 名詞について理解する [冠詞、数、動詞との一致]	①②③④⑤⑥	A B C A B C A B C
	第2回定期試験	Lesson 4 Lesson 5	いろいろな種類の文を作る [肯定文、否定文、疑問文] 時制に合わせて文を作る [現在形、過去形、進行形]	①②③④⑥	A B C A B C
	第3回定期試験	Lesson 6 Lesson 7	未来の予定や計画についての文を作る [will, be going to-] 完了形の使い方を理解する [have+過去分詞, had+過去分詞]	①②③④⑤⑥	A B C A B C
第4回定期試験	Lesson 8 Lesson 9	助動詞の使い方を理解する① [can(能力), may(許可)] 助動詞の使い方を理解する② [should(推量), 助動詞+have+過去分詞]	①②③④⑥	A B C A B C	
第5回定期試験	Lesson 10	今まで学んだ文法事項を使って、自分の考えを表現することができる	①②③④⑤⑥	A B C	
検定資格(時期) ・諸費用(予定)	実用英語技能検定（6月・11月・1月） ：希望者受験（進学希望者は入試の際に必要になる場合あり、平成30年度～）				
履修にあたって	英語の辞書の使い方から、高校での英語学習について基本的なことを学ぶ 授業には必ず辞書を準備し、単語を調べるようにする				

教科年間シラバス

詳細は授業にて指示

教科・科目	農業・農業と環境	単位数	3	(必履修)・(必修)・選択
学年・系列・コース	1学年			
使用教科書	実教出版 農業と環境(農業325)	副教材	食品製造(実教)、微生物基礎(実教)	
目標とする生徒の将来像	農業生物の生育と環境保全についての体験的、探求的な学習を通して、農業に関する基礎的な知識と技術を習得させ、農業および農業学習について興味関心を高める。 農業と環境と食品製造の関係を理解させ、栽培の基礎を習得する。			

評価の観点	農業と環境の授業は、作物の性質や特徴、農機具の使用方法を理解し、作業ができるかである。そのための実践力を養うことを中心に学習する。栽培を行う作物だけではなく、作物の分類にあわせた栽培ができるように学習を行っていく。また「食品化学」「微生物基礎」「食品製造」で学ぶ、食品加工、分析実験などについての学習や「農業情報処理」で学ぶプレゼンテーション能力など総合的な学習が相補的に必要である。
-------	--

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	第1回定期考查	第4章 栽培と飼育のプロジェクト 6. トマト	トマトの栽培方法や性質を知る ・トマト栽培の管理方法や植付準備の方法を理解し、行うことができる。 ・農機具の使用方法や名称を覚える。	作業 (正確さ・早さ・計画性) 道具の使用 (安全性・正確性・理解力)	A・B・C
		第6章 学習のまとめと学校農業クラブ 2. 学校農業クラブ活動	農業クラブについて理解する。 ・農業クラブの活動目標や活動を知る。	実習記録(ノート・プリント) ペーパーテスト 授業態度の観察など	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第2回定期考查	第4章 栽培と飼育のプロジェクト 6. トマト	トマトの管理方法を理解する ・トマトの性質を理解し、栽培管理を自分で考え行うことができる。 ・トマトの加工品や製造原理を理解する。	作業 (正確さ・早さ・計画性) 実習記録(ノート・プリント) ペーパーテスト 授業態度の観察など	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		第3章 栽培と飼育の基礎 1. 作物の特性と栽培のしくみ	作物の分類と特性について知る。 ・作物の成長と管理作業の意味を結びつけるようにする。	実習の態度 (正確さ・手際・気配り)	A・B・C
2学期	第3回定期考查	第4章 栽培と飼育のプロジェクト 7. ハクサイ 8. ダイコン	ダイコンとハクサイの栽培方法や管理方法を理解する。 ・それぞれの作物の栽培方法や管理方法の違いを理解し、作物に合った管理ができる。	作業 (正確さ・早さ・計画性・理解) 実習記録(ノート・プリント) ペーパーテスト 授業態度の観察など	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		第3章 栽培と飼育の基礎 1. 作物の特性と栽培のしくみ	作物の分類と特性について知る。 ・作物の成長と管理作業の意味を結びつけるようにする。	授業態度の観察など	
	第4回定期考查	第4章 栽培と飼育のプロジェクト 7. ハクサイ 8. ダイコン	ダイコンとハクサイの栽培方法や管理方法を理解する。 『フェスタ笛吹』の準備 ・ダイコンとハクサイの漬物の製造 ・販売準備(食品の流通を学ぶ) 身近な食品の加工原理から科学的な視点を意識できるようにする	作業(正確さ・早さ・習熟度・計画性・創造性) 作品評価(生産過程・完成品) 自己評価文(ノート・テスト) 実習記録(ノート) 授業態度の観察など	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		第6章 学習のまとめと学校農業クラブ ・ プロジェクト学習のまとめと発展	プロジェクト学習の成果をまとめ、発表の方法を発表 身につける ・様々な作物で学んだ栽培方法を活用する能力と態度を身につける。	作品評価(生産過程・完成品) 自己評価文(ノート・テスト) 実習記録(ノート)	A・B・C
3学期	第5回定期考查	第4章 栽培と飼育のプロジェクト 13. ニワトリ 14. ウシ	ニワトリとウシの飼育方法や性質、形態、品種を理解する。		A・B・C
		検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	『農業技術検定』(一般社団法人 全国農業会議所) 年に2回(7月、12月)に試験を行う。3級は3080円 2級は4110円 1級は5140円。3級を取得していないと2級を受験することはできない。	自己評価文(ノート・テスト) 実習記録(ノート)	A・B・C
	履修にあたって	①食の基本となる農業を学んでいく。様々な作物を栽培・管理しながら作物栽培の基本を学ぶ。暑い日も雨の日も様々な管理を行い、果実が実り、収穫できる喜びは普段の生活では味わえない喜びです。是非、積極的に手を汚して作業をしてください。 ②農作物の栽培や管理を理解して、その成果をプロジェクト学習として発表できるようにしていく。			A・B・C

教科年間シラバス

詳細は授業にて指示

教科・科目	農業科・農業情報処理	単位数	(必履修)・必修・選択
学年・系列・コース	1年4組(食品化学科)		
使用教科書	実教 農業情報処理	副教材	30時間でマスター Word & Excel 2013 (実教出版)
目標とする生徒の将来像	<p>・社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、情報に関する知識と技術を習得させるとともに、農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。</p> <p>・情報化社会に役立つコンピュータの基本操作、基礎知識、情報モラルを習得する。</p> <p>・情報を収集、加工、活用する能力(情報処理能力)を身に付ける。</p> <p>・プレゼンテーション技術と能力を身につける。</p>		
評価の観点	<p>①関心・意欲・態度:情報や情報技術に関心を持ち、情報社会の発展に主体的に関与しようとする。</p> <p>②思考・判断・表現:情報や情報技術を活用し、思考を深め、適切に判断し、表現する。</p> <p>③技能:情報及び情報技術について活用するための技術を身につけ、効果的に活用している。</p> <p>④知識・理解:情報及び情報技術を効果的に活用するための知識を身につける。</p>		
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力
1学期	第1回定期検査	生活と農業の情報化 コンピュータによる情報の活用 日本語ワードプロセッサの利用	情報モラルを身につける 個人情報・知的財産の取り扱い方法を学ぶ パソコンの基本的な使い方ができるようになる。 文字の入力
	第2回定期検査	ワープロの基本操作 生活と農業の情報化	日本語の入力ができるようになる。 ショートカットキーを使いこなす 情報モラルを身につける 夏休みに向け、再度情報モラルを身につける
2学期	第3回定期検査	表計算ソフトウェアの利用 表計算ソフトウェアの概要 表の作成と表計算	ブック・シート・表の概念を理解する 簡単な四則計算ができるようになる 簡単な数式・関数を用いて計算できる 表を利用してデータの可視化をする
	第4回定期検査	表計算ソフトウェアの利用 グラフの作成 表計算ソフトウェアの応用 プレゼンテーションソフトウェア の利用	グラフを利用してデータの可視化をする VLOOKUP関数・SUMIF関数までを使いこなせるようになる パワーポイントで、文字・図の挿入ができる パワーポイントを用いて、図の加工編集ができる
3学期	第5回定期検査	プレゼンテーションソフトウェア の利用 農業学習と情報活用 プロジェクト発表学習 プロジェクト発表	スライドの切り替えやアニメーションを使える 分かりやすい発表を行えるようになる プロジェクト学習の基礎を学ぶ
検定資格(時期)	必修では無いが、商業科の「ビジネス文書実務検定試験」について紹介する。(全国商業高等学校協会・約1000円)		
諸費用(予定)	授業内で検定の問題を実演させ、日本語入力の能力向上を目指す。		
履修にあたって	本科目では、情報処理技術のみならず、情報モラルについても扱う。いずれにせよ、知識として覚えるのみならず、実際の生活に活かすことで、はじめて意味をなすものである。現代はスマホゲームやSNSなどの問題が多発するが、早い時期でチケットについて学習をし、有意義な生活を過ごせるようになる。 また、Excelの使い方はVLOOKUP・SUMIFまで学習を行う。短時間で高度な内容まで学習するため、授業中の態度に気をつけること。パソコンの使い方が分からぬ生徒でも基礎から応用まで、社会で実戦力として使える内容を学習していく。		

教科年間シラバス

詳細は授業にて指示

教科・科目	農業・食品製造	単位数	3	必履修	・必修	・選択
学年・系列・コース	1学年					
使用教科書	実教出版 食品製造(農業305)			食品化学(実教)、微生物基礎(実教)		
目標とする生徒の将来像	食品製造に必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工方法および貯蔵の原理を理解し、食品の品質と生産性の向上を図る能力と態度を身につける。					
評価の観点	【関心・意欲・態度】食品製造や加工の原理に興味関心を持ち、原材料の加工適性や食品特性に心して食品の製造や貯蔵に意欲的に取り組む。 【思考・判断・表現】原材料の加工適性や食品特性に応じた食品加工の方法を多面的に考察し、食品加工の方法に応じた機器の利用や品質管理を判断できる。 【技能】原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど、食品の製造と貯蔵に関する基本的な技術を身につけ、適切に実施することができる。 【知識・理解】食品加工、製造用機器の取り扱いなど、食品の製造と貯蔵に関する基本的な知識を身につけ、原材料の加工適性や食品特性と加工原理を理解するとともに品質管理や衛生管理の知識を理解している。					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1学期	第1回定期考查	第10章 生産管理の改善 1品質管理 2作業体系 3安全と安心 第1章食品製造の意義と動向 1食品製造の意義 2食品産業の現状と動向	小麦粉の性質を知る ・小麦粉の定性実験 ・グルテンの抽出実験 小麦粉の性質を生かした食品の製造 ・ソフトビスケットの製造 品質管理の意義を考える そのための人の教育、施設・設備を理解する	作業(正確さ・早さ・習熟度・計画性・創造性) 作品評価(生産過程・完成品) 自己評価文(ノート・テスト) 実習記録(ノート)	A・B・C	A・B・C
	第2回定期考查	第2章食品製造の基礎 1食品の分類 2身近な食品の科学(1)	小麦粉の性質を生かした食品の製造 ・うどんの製造 小麦粉の性質を生かした食品の製造 ・ロールパンの製造 身近な食品の加工原理から科学的な視点を意識できるようにする	作業(正確さ・早さ・習熟度・計画性・創造性) 作品評価(生産過程・完成品) 自己評価文(ノート・テスト) 実習記録(ノート)	A・B・C	A・B・C
	第3回定期考查	身近な食品の科学(2)	米の性質を知る 米の種類と分析実験 ・梗米餅米の判定 ・搗精度の判定 ・米の新鮮度の判定 身近な食品の加工原理から科学的な視点を意識できるようにする	ペーパーテスト 学習記録(ノート) 学習中の服装や態度 感想文(ノート・テスト)	A・B・C	A・B・C
	第4回定期考查	身近な食品の科学(3) 第3章 1食品の変質と貯蔵	米の性質を生かした食品の製造。 ・団子、煎餅の製造 『フェスタ笛吹』の準備 ・ソフトビスケット、うどんの製造 ・販売準備(食品の流通を学ぶ) 身近な食品の加工原理から科学的な視点を意識できるようにする	作業(正確さ・早さ・習熟度・計画性・創造性) 作品評価(生産過程・完成品) 自己評価文(ノート・テスト) 実習記録(ノート)	A・B・C	A・B・C
	第5回定期考查	2食品の貯蔵法 ・食品の各種貯蔵法の原理 ・乾燥による貯蔵 ・低温による貯蔵	小麦粉の性質を生かした食品の製造 ・スポンジケーキの製造 身近な食品の加工原理から科学的な視点を意識できるようにする 失敗しない確かな実践力を付ける	作業(正確さ・早さ・習熟度・計画性・創造性) 作品評価(生産過程・完成品) 自己評価文(ノート・テスト) 実習記録(ノート)	A・B・C	A・B・C
	検定資格(時期) ・諸費用(予定)	『家庭料理技能検定』(文科省農水省厚労省後援)一次検定5/11申込み〆切、6/17(日)検定日4級3000円3級4000円、二次検定10/12申込み〆切、11/18(日)検定日級5500円 会場山梨学院短期大学 『菓子検定・料理検定』(大阪あべの辻専門学校)4/20一般申込み〆切6/9(土)検定日 3級3200円2級4200円 会場笛吹高等学校				
履修にあたって	①受動的な学習から能動的な学習への転換をして下さい。 ・「予習、実習、復習」のノート展開、・魅力ある自分ノート ②共同実習室を利用する生徒としての実践 ・5分前行動、・5S「整理・整頓・清潔・清掃・継続」の取り組み ・「TPM活動」メンテナンス(maintenance)からマネージメント(management)					

教科年間シラバス

詳細は授業にて指示

教科・科目	農業「食品化学概論」	単位数	(必履修)・(必修)・選択		
学年・系列・コース	1学年 食品学科				
使用教科書	実教 食品化学 微生物基礎	副教材	自作プリント等		
目標とする生徒の将来像	食品を安全に供給するための基礎として食品加工の基礎としての保存方法を理解するとともに、食品成分分析のための実験の基礎、食品微生物の取り扱いの基礎を学ぶことにより、食品化学の学習の導入と概要を理解し基礎技術の習得をする。				
評価の観点	<p>〈関心意欲態度〉化学の原理や法則、微生物の実験に关心を持ち、食品科学を学ぶ意欲・態度を身に付けています。</p> <p>〈思考判断表現〉それぞれの実験の目的、実験の方法などから実験の計画を立てることができる。</p> <p>〈技能〉化学実験や微生物実験の基本的な方法を理解し、実験を安全に行うことができる。</p> <p>〈知識理解〉化学や生物の原理、基本的な実験の方法を知識として習得し、理解している。</p>				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		
1学期	第1回定期考查	化学実験の基本 実験基本操作 実験器具の名称と取り扱い 試薬と取り扱い 秤量・試薬溶液の調整 化学の基礎知識	安全に実験をするためのポイントがわかる。 メニスカス、共洗い、ピペットの種類と持ち方がわかる。 イオン交換水、純水、蒸留水の違いがわかる。 天秤の操作方法がわかる。濃度のあらわしかたがわかる。 原子の構造について説明できる。	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	A B C A B C A B C A B C
	第2回定期考查	化学実験の基本 実験基本操作 おもな標準溶液の作り方 中和滴定 力価の測定	イオン、モル、規定度がわかる。 0.1Mシュウ酸、0.1M水酸化ナトリウムの調整ができる。 酸アルカリ溶液の中和滴定ができる。 シュウ酸と水酸化ナトリウムの中和滴定により力価の測定ができる。	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	A B C A B C A B C A B C
	第3回定期考查	食品化学実験 pHの測定 指示薬 中和滴定 ろ過方法 酸化と還元 酸化還元滴定	中和滴定時のpHを測定できる。 指示薬の種類と変色について説明できる。 中和滴定曲線を作成できる。 ろ過の実験器具をセットできる。 酸化と還元 酸化数が求められる。 過マンガン酸カリウムとシュウ酸の反応がわかる。	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	A B C A B C A B C A B C
	第4回定期考查	微生物実験の基本 除菌法 顕微鏡の使い方 微生物の大きさの測定 菌数の測定	綿栓の作用とろ過除菌法がわかる。 顕微鏡により微生物を観察することができる。 ミクロメータの使い方がわかる。 ヘマトメーターでパン酵母の菌数の測定ができる。	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	A B C A B C A B C A B C
	第5回定期考查	微生物実験 培地の種類と作り方 微生物の培養	培地の種類と作成の仕方がわかる。 斜面培地の作成ができる。 斜面培養による微生物の培養ができる。	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	A B C A B C A B C A B C
検定資格(時期)	特になし。				
諸費用(予定)					
履修にあたって	必ず白衣を用意し、ゴーグルや手袋を着用して、飛散ややけどを負わぬよう、安全な実験に努めること。				

教科年間シラバス

詳細は授業にて指示

教科・科目	芸術 音楽 I	単位数	2			
学年・系列・コース	普通科・農業科 1 学年 総合学科 2 学年					
使用教科書	MOUSA 1 教育芸術社	副教材	ミュージック・ノート			
目標とする生徒の将来像	音楽 I では、生涯にわたって音楽に親しんでいくための基盤となる力を育てたい。そのために第一は、音楽の授業において自ら学ぶ態度と方法を身につけることを目指す。第二に、自分の知る曲や興味のあるアーティストだけではなく、世界の様々な音楽に親しませ、広い音楽的視野を身につけさせることを目指す。					
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。 創意工夫を生かした表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。 音楽の基本的な知識を理解し、音楽表現の向上に結びつける。 					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・評価のポイント	評価方法		
1 学期	4	校歌 やさしさに包まれ たなら 少年時代	様々な表現方法による歌唱活動に関する関心を持ち演奏効果を生かして歌うことに主体的に取り組む。	校歌(詩)をノートに写し提出		
	5	バロックまでの音楽 グレゴリオ聖歌 合奏 協奏曲ほか	様々な時代の音楽や作曲家の特徴、楽器の音色等表現上の効果に関心を持ち、その文化的・歴史的背景を踏まえて鑑賞することに主体的に取り組む。	鑑賞の記録		
	6	音符と休符 音名と譜表	音楽の基本的知識について理解し、音楽表現の興味に結びつける。	筆記試験		
	7	三味線 さくらさくら お江戸日本橋 イタリア歌曲 Caro mio ben O sole mio	三味線の音色や奏法の特徴を生かして、技能を身につけ表現を工夫する。	実技試験		
			曲想と歌詞の内容、楽曲の背景と関わらせて、イメージを持って音楽表現するために、必要な歌唱技能を身につけ、創造的に表現する。	実技試験		
	2 学期	9	日本の歌から 故郷 この道ほか	曲想と歌詞の内容、楽曲の背景との関わりに関心を持ち、それらを生かして歌うことができる。	発表	
		10	古典派の音楽	様々な時代の音楽や作曲家と、その文化的・歴史的な背景を踏まえて鑑賞する	鑑賞の記録	
11		モーツアルト作品 音名、演奏の形態	音楽の基本的知識について理解し、音楽表現の向上に結びつける。	筆記試験		
12		楽典 合奏	名楽器の音色や奏法の特徴を生かし、仲間と協調性や積極性を持ち、完成度の高い音楽表現を工夫する。	発表		
月		リコーダーほか				
3 学期	ドイツ・リート 野ばら リズム テキスト	曲想と歌詞の内容、楽曲の背景と関わりに関心をもち、それらを生かして歌うことができる。 音楽を形作っている要素に興味をもち、理解・表現することができる。	実技試験			
		ロマン派以降の音楽 シューベルト作品	様々な時代の音楽や作曲家と、その文化的・歴史的な背景を踏まえて鑑賞する。	実技試験		
	履修にあたって	○音楽を形づくっている要素が楽曲を特徴づけるのにどのような役割をしているかを、創作や鑑賞活動を通して理解する。				
	諸費用 : 500 円	○実技体験を通して、表現の向上や意欲を培う。				
	ファイル・実技準備費					

教科・科目	芸術 美術 I	単位数	2			
学年・系列・コース	普通科・農業科 1 学年 総合学科 2 学年					
使用教科書	美術 1 光村図書	副教材				
目標とする生徒の将来像	○幅広い創造活動を通して、楽しく美術に取り組み、美術を愛好する意欲と態度を育てる。 ○観察力及び表現力を養い、基本的技能を身につけ、感性や想像力を磨き表現する力を養う。 ○自然や美術作品についての基礎的な理解をし、美しさを感じ取る鑑賞力を身につける。					
評価の観点	○美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。 ○感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 ○創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。 ○美術の働きや美術文化、美術作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・評価のポイント	評価方法		
1 学 期	4 月	絵画 「油彩・自画像」 (24-25)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な自画像の作品を鑑賞し、主題や表現の効果を感じ取る。 ・主題設定及び構図を決める。 ・設定した主題が表出するように工夫する。 ・アイデアスケッチで構想を練る。 ・油絵の特徴と技法を理解し、素材の違いを表現できているか。 ・油絵作品の美しさを理解しているか。 ・作品意図を言葉で伝えることができるか。 	下絵提出 作品提出 ワークシート提出 発表		
	5 月	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿ったポスターを提案する。 ・彩色にあたって、バランスよく配色する ・ムラのないように色を塗る ・作品意図を言葉で伝えることができるか。 	作品提出 ワークシート提出 発表		
	6 月	7 月	デザイン 「ポスター」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿ったポスターを提案する。 ・彩色にあたって、バランスよく配色する ・ムラのないように色を塗る ・作品意団を言葉で伝えることができるか。 	作品提出 ワークシート提出 発表	
2 学 期	9 月	彫刻「石膏彫刻・塊から掘り出す」 (30-31)	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の持つイメージを理解し、自分なりに表現する。 ・作業工程を理解し、素材の特性を生かした独創的な表現になるよう工夫する。 ・作品意図を言葉で伝えることができるか。 	作品提出 ワークシート提出 発表		
	10 月	鑑賞				
	11 月					
3 学 期	1 月	絵画 「油彩・静物画 花」 身近なものを描く (8-9)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書から描きたいイメージを見つけ、そのイメージを意識して描く。 ・光の陰影や、面等を把握して形体を表現する。 ・友人の作品をみて良さをみとめ、自分への意欲を高める。 	作品提出 ワークシート提出 感想文提出		
	2 月	植物を描く (10-11)				
	履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具、教科書、指示されたものは必ず持ってくる。 ・提出期限は必ず守る。守らないと評価できないため単位がもらえない。 ・授業態度はとてもよく見られているので、大きな声で指導されないからといって油断しない。 ・片付けは、自分の道具だけではなく、作業した場所は必ず掃除する。 				

教科・科目	芸術 書道 I	単位数	2			
学年・系列・コース	普通科・農業科1学年 総合学科2学年					
使用教科書	書 I 光村図書	副教材				
目標とする生徒の将来像	生涯にわたって芸術を愛好する心情を育む。書道の様々な活動を通して、生活に根ざした「書」を意識し、実用的な書を身につけることで、芸術的な能力を伸ばす。					
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 自発的な意図から作品の効果を高める工夫をし、取り組む。また、意欲的・主体的に活動を行い構想から完成までの充実感や表現する喜びを味わおうとする。 基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を把握している。 意図に基づく表現の構想と工夫がされている。 					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・評価のポイント	評価方法		
1 学期	4	書へのいざない 「書道の世界へ」	<ul style="list-style-type: none"> ○書写と書道の違いを理解できているか。 ○文房四宝の役割を理解しているか。 ○紙面の空間・墨量を意識できているか。 ○古典の臨書学習により基本的な点画や線質の表し方、執筆法・運筆法を学ぶ。 ○それぞれの作品の特徴・時代・人物を区別できているか。 ○筆使いがしっかりと理解できているか。 ○紙面への工夫が凝らされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード) ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品) ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品) ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品・相互評価プリント) 		
	5	漢字の書の学習 「漢字の書の世界へ」				
	6	「楷書の古典を学ぼう」				
	7					
2 学期	9	漢字の書の学習 「書道パフォーマンスとは」	<ul style="list-style-type: none"> ○行書の筆法・くずし方を理解しているか。 ○古典の鑑賞により多様な表現方法・字形の崩し方を理解しているか。 ○楷書との入筆の違いを理解しているか。 ○筆順を理解しているか。 ○それぞれの古典の特徴・時代・人物について理解しているか。 ○事前の準備がしっかりとされているか。 ○紙面への工夫が凝らされているか。 ○学んだ用筆法がしっかりと使われているか。 ○紙面に対しての構成が工夫されているか。 ○プリント課題への取り組み。 ○落款について、その用途・効果について理解しているか。 ○篆刻の形状にあうものを制作できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品) ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品・相互評価) ○参加状況・態度 ○提出物(名前カード・作品・相互評価プリント) 		
	10	「行書の古典に学ぼう」				
	11	「半切創作作品制作」				
	12	生活の書 「くらしの中の書」 篆刻の学習				
3 学期	1	仮名の書の学習 「仮名の基本・いろは歌・高野切第一種を学ぶ」	<ul style="list-style-type: none"> ○成立や種類について理解しているか。 ○仮名の線、運筆について理解しているか。 ○古筆の表現方法を学習し、空間の使い方、文字の大小について理解しているか。 ○これまでに身に付けた筆法・表現方法を生かして、身近な文書を書芸術として表現できるか。 ○自分の考えをしっかりと持てているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加状況・態度・提出物(名前カード・作品・ペーパーテスト) ○参加状況・態度・提出物(名前カード・作品) ○参加状況・態度・提出物(名前カード・作品・発表・相互評価プリント) 		
	2					
	3					
	月	漢字仮名交じりの書				
履修にあたって		○習字と書道の違いを理解することで、「文字」に対する芸術としての視点、多角的な見方を学んでもらいたい。				
諸経費:1,000 円		○手書き文字は生涯、必要不可欠である。そのため、文字を書く事の楽しさを覚えもらうと同時に、手書き文字には自分の心情が表れるということを学んでもらい、手書き文字の大切さを学んでもらいたい。				
印材・カレンダー等						